

CMI 株式会社

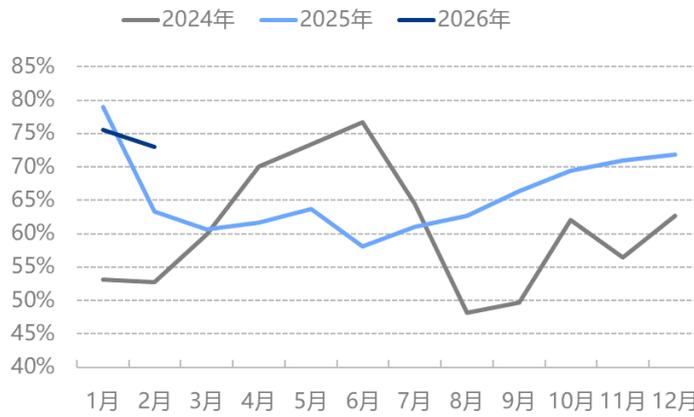
横浜市鶴見区鶴見中央2-12-30-105

TEL: 045-717-8575 FAX: 045-717~8683

2月 中国春節前後の負極材料市場

中国では、春節（旧正月）前後の約2~3週間に工場の稼働を落とししたり、生産停止や、物流混雑による経済活動への影響が起こる時期とは言える。

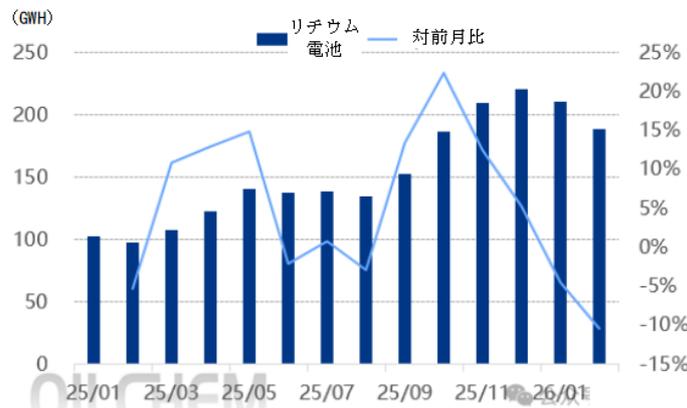
2026年の春節は2月17日で、全国の公式休暇は9連休（2月15日~23日）であった。その前後も含め中国の負極材料市場の動向について取りまとめた。



出典：隆衆資訊

図1. 中国の負極材料の稼働率（2024年~2026年2月）

供給側の推移を見ると、2024年から2025年第1四半期の負極材料の稼働率は52%~78%の間で推移し、平均稼働率は61%であった。一方、2026年2月の稼働率は73%前後となる見込みで、過去2年間の水準を上回る見通しである。春節期間中も大手企業の多くは通常通り操業を維持するが、2月は営業日数が少ないため、月次生産量としては1月を若干下回る見通しである。



出典：隆衆資訊

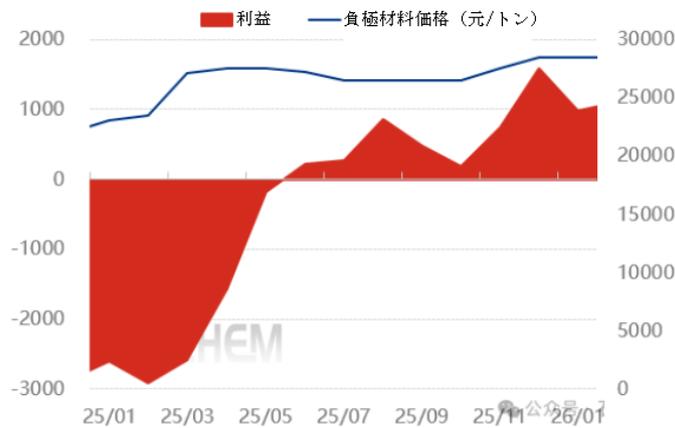
図2. 中国のリチウム電池生産量（2025年~2026年2月）

CMI 株式会社

横浜市鶴見区鶴見中央2-12-30-105

TEL: 045-717-8575 FAX: 045-717~8683

需要面では、2月のリチウムイオン電池生産量は前月比10%程度減少する見込みである。動力電池は閑散期に入中、民生用及び特殊蓄電池セルのラインは春節休暇（2月15日～23日）に伴い一時稼働を停止した。しかし、市場の中核をなす314Ahや587Ahといった大容量セルについては、依然として高い稼働率を堅持した。大手メーカーの受注状況は第2四半期まで確定しており、3月は生産再開と市場の様子見ムードの解消に伴い、リチウムイオン電池の生産量は10～15%のレンジで拡大する見通しである。



出典：隆衆資訊

図3. 中位グレード人造黒鉛負極材料の生産利益（2025年～2026年2月）

1月は、人造黒鉛負極材料の主原料である低硫黄分石油コークスおよび被覆ピッチの価格が上昇し、負極材料の製造コストを押し上げた。一方で負極材料の販売価格は据え置かれたため、収益性は悪化した。中位グレード製品の生産利益は977元/トン(約2.21万円/トン、1元≒22.62円)となり、前月比で608元/トン(1.38万円/トン、38.37%減)の大幅な減益となった。2月の生産利益は、石油コークス価格の下落を背景に、1,100元/トン(2.49万円/トン)程度まで回復する見込みである。

2025年の中国における負極材料生産量は高水準を維持した結果、供給の伸びが需要を上回った。さらに原料価格の高騰が利益率を圧迫し、市場競争は激化した。

2026年春節明けは、石油コークスやニードルコークスの価格が小幅に上昇し、負極材料の市場価格を下支えすると予測される。さらに動力電池市場の安定した需要とエネルギー貯蔵市場の好調を背景に、負極材料への引き合いが強まり、稼働率が段階的に回復していく見通しで、業界全体として堅調な発展が期待される。

情報源：石墨盟、隆衆資訊等